

2013年(平成25)11月

カルメル  
靈性センターニュース



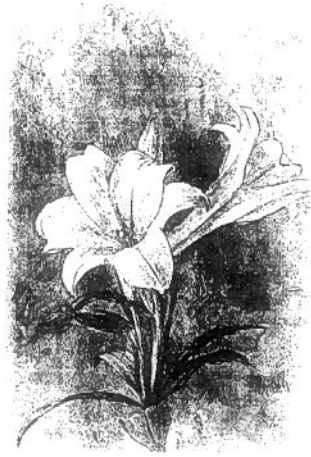
2013年11月

292号

## 目次

心の泉	1
カルメル会の企画案内	17
諸所の企画案内	29
年間購読(郵送)のご案内	40
編集後記	41

# 心の泉





## 第二卷

### 第一章 内的なまじわり

#### 6 内的な人

あなたが、ただ一度でも、キリストのみこころに入って、その激しい愛のひとかけらでも味わうことができれば、あなたは自分の好悪や苦楽を気にかけず、むしろ侮辱されることを喜ぶであろう。

イエスを愛すると、人間は自分自身を軽蔑するようになる。イエスと真理とを愛し、すべての執着をのがれ、真に内的な生活を送っている人は、たやすく神に向かい、精神をもって高く上がり、慰めのうちに休むことができる。

#### 7 潜心の習慣

他人の話や批評によらず、そのものの価値によって物事を評価する人こそ、真の知恵者であり、人間よりも神によって導かれている人である。内的な生活を知り、物事を外部だけで判断しない人は、信心の修行のために特別な場所と時とを探する必要を感じない。

内的生活を営んでいる人は、たやすく潜心することができる。なぜならば、外部のことに押し流されることがないからである。また、日々の仕事や一定期間の務めも、さまたげにはならない。彼らは事が起こると、いつもそれに対処しうるからである。心がよく整い、おさまっている人は、他人の騒がしいおこないや、心ないふるまいに気をとめない。人は、世間の事柄にかかわればかかわるほど、さまたげられて気が散るのである。

# 信仰年に

神と親しく生きるために - 11 -



## 三位一体

それこそわたしたちの  
住まい、  
「わたしの家」  
けっして そこから  
出てはいけない

父の家なのです \*

～三位一体のエリザベット～

信仰をかためてください。  
神の偉大な光のもとに行動し、  
決して印象とか、想像とかに とらわれないように。  
神があなたを愛しておられ、あなたの戦いにおいては、  
ご自身で あなたを支え 助けようとしておられることを

信じてください。

聖パウロが あまりにも大きな愛と呼んだその神の愛を

信じてください。\*

信仰年は今月で終わりを迎えますが、パウロが心の底から叫んだ「あまりにも大きな神の愛」をこれからもさまざまな出来事のうちに固く信じて日々過ごしてゆくことができますように。

伊従 信子 (いより のぶこ)  
ノートルダム・ド・ヴィ

\* 『いのちの泉へ』 ドン・ボスコ社

## 人を赦す (2)

くのり 彰

「人を赦す」と言う時、確かに赦す者は、赦される者より優位に立っている。赦される者は、赦す者に対し、何らかの過失、心や体を傷つける言動、損害を与える行為など、ひと言で言えば罪を犯したため、それに対し、謝罪する必要があるからである。

したがって、謝罪がない限り、相手を赦さないと考えることは、ごく自然である。物を壊した場合、それに対して弁償することが、謝罪の行為となる。相手が心から謝罪すれば、弁償しなくともいいと赦すかもしれない。しかし、重要文化財、国宝級の物であれば、弁償ではすまず、犯罪として扱われることだろう。

要するに、罪を犯した者が、その罪を帳消しにするような謝罪の行為(言葉や態度であれ、物であれ、お金であれ)をした時、はじめてその罪は赦されると、一般的には理解されているようである。

いわゆる、世界最古のハンムラビ法典にもある「目には目を、歯には歯を」という同害復讐法は、人間のきわめて自然な心の動きを明文化したものであろう。やられたらやられっ放しではなく、右目をつぶされたら、つぶした相手の右目をつぶす権利(両目はダメ)が、また前歯を一本折られたら、折った相手の前歯を一本折る権利(二本はダメ)が、被害者にあるということは、きわめて公平な法律であり、現在に至るまで法律の基本であろう。被害者が社会的に弱者であれば、泣き寝入りしなくてもいいように、「正義」が行われるように、この法律ができたと考えられる。その意味で、「やられたら、やり返す」ということは、子供の喧嘩でも、さまざまな武器を使う大がかりな大人の戦争でも、同じであろう。

だが、キリストは、このようなある意味で分かりやすい、「やられたら、やり返す」動物的な反応を戒め、それを超える、一般的には理解できない倫理を、キリスト者に求めておられる。

しかし、私は言うておく。悪人に手向かってはならない。だれかがあなたの右の頬を打つなら、左の頬をも向けなさい。あなたを訴えて下着を取ろうとする者には、上着をも取らせなさい。だれかが、一ミリオンに行くように強いるなら、一緒に二ミリオン行きなさい。(マタ5・38-41)



## 十字架の聖ヨハネ こぼれ話（74）

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

### 説教しなかった説教者（1）

前の場合では、説教者は、口をすべらしてしまいました。今回の場合は、逆です。

このことを巧みに物語ったのは、セゴビアの修道院の一修道士です。

十字架のヨハネ修父がセゴビアの修道院長であった時、「一度、ある神父に、ある祝日に説教するように命令しました。その日になると、説教を聞くために多くの人々がやってきました。すでにミサに入っていたので、人々は説教するよう彼を呼びに行きました。彼は、ひどく不機嫌に、できないと答えました。聖なる神父は、まったく落ち着いて、そのままミサを続け、説教が欠けたことについてひと言も言わず、またそれに苦しむ様子をその説教者にも他の修道者にも示さず、ミサと聖務を終わらせました。しかし、ひそかに、その説教者が喜びを感じていたある事柄——それは世俗のある人々との交際のことでしたが——に関して、彼を叱りました。それによって、自分を恥ずかしく思い、犯した過ちを思いめぐらすようにしました。」

復活祭の第二日目に、不機嫌にいらいらしながら、この説教者は、鐘をならしましたが、それは、アナ・デ・ペニャローサ夫人や弟のルイス氏やその他、市の名士たちが列席する中で、大きく鳴り響きました。

これを物語った同じルカ修士は、少し違った形で同じことを話しています。確かにもっと詳しい話は、聞くに値するでしょう。

1604年の8月20日付のセゴビアの手紙で、聖人（訳注：十字架の聖ヨハネのこと）を生前知っていた人々は、彼の生涯や諸徳について知っていることを物語るようにという総長が出した命令に答えながら、このことについて触れています。この有名な説教に関連するところは、次の箇所です。（続く）



「今日、救いがこの家を訪れた」（路 19, 9）。

福音は、「イエスはエリコに入り、町を通っておられた」と始まっています。エリコは、死海に近い海拔の低いところに位置する町であり、イエスが目指しておられる目的地エルサレムは、丘の上、もう一登りの道の先に見えています。この道は、受難への道、そして、十字架を通して復活、御父のもとに昇って行く道でもあるのです（参照路 9, 31）。御父のもとから降って来て、また、御父のもとに昇る、これがイエスの地上の生涯のすべてであり、ここで、この生涯を要約するような出来事が起こったのです。「わたしが来たのは、正しい人を招くためではなく、罪人を招いて悔い改めさせるためである」（路 5, 32）と言われるイエスと罪の闇に生きる徴税人の頭ザアカイの出会いです。イエスは、御父のもとから降ってきて人の子となり、見失われた一匹の羊を捜して、ついには、十字架に登り、その上に死ぬ。この降ってくること、そして、十字架の樹から御父のもとに昇ること、この降り、そして昇る運動とザアカイが樹に登り、樹から降る運動が、交差するところ、そこに、「今日、救いが訪れた」、この救いの宣言の出来事、言葉だけではなく、その事実が起こっているのです。

徴税人の頭ザアカイは、イエスを見ようとして樹に登った。「背が低かったので、群集に遮られて見るができなかった」と書かれていますが、それだけではなかったと思います。人々の嫌悪と軽蔑の刺すような眼差しに身を曝したくはなかった、それで、「いちじく桑の木に登った」。葉の陰に身を隠して、群衆に、そして、イエスにも見つからないで、こっそりと見ようとしたのでしょう。このことが想起させるものは、エデンの園で、アダムとエバが蛇の誘惑に乗せられて禁断の木の実を食べた直後の出来事です。「その日、風の吹くころ、主なる神が園の中を歩く音が聞こえてきた。アダムと女が、主なる神の顔を避けて、園の木の中に隠れると、主なる神はアダムを呼ばれた。『どこにいるのか。』」（創世記 3, 8-9）。罪を犯した後のアダムと徴税人ザアカイが二重写しになってはいませんか。アダムの口によってザアカイの心の陰影が代弁されています。アダムもザアカイも木の葉の影に身を隠したつもりでしょうが、神は、そして、イエスは、彼らが隠れているところにまで捜しに出てこられている。そして、声をかけられる、「ザアカイ、急いで降りてきなさい」、「今日は、ぜひあなたの家に泊まりたい」、「今日、救いがこの家を訪れた。・・・人の子は、失われたものを捜して救うために来たのである」。

ルカ渡辺幹夫



## 年間第32主日(C)

みことばのひびき

「神は死んだ者の神ではなく、生きている者の神なのだ。  
すべての人は、神によって生きているからである。」 (ルカ20:27-38)

あなたの生活はこの世的な関心にとらわれていませんか、それとも天に向かっていますか。サドカイ派の人は一つの大きな問題を持っていました。彼らは体の目で見ることができものの向こうに、天を信じることができませんでした！ 私たちは彼らに似ていませんか？ 私たちはこの世的なイメージの中に天を作ろうとするので、霊的な現実を認めません。サドカイ派の人は復活をばかげたものに見せようとして、試みの質問を持ってイエスのところにやってきました。サドカイ派の人は、ファリサイ派の人と違って、魂の不滅や、天使、悪霊を信じませんでした。彼らの宗教は文字通りこの世的な天のイメージに基づいていました。イエスは復活の事実で言いかえします。聖書はそれを証明します。出エジプト記3：6に於いて、主は燃える柴の中に神の現存をモーセに明らかにされた時、主はご自分がアブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神であると言われます。何百年も前に死んだ太祖が神の中に生きていることを示します。神が生きている人の生きている神であることを示すことで、イエスは彼らの議論を負かします。アブラハム、イサク、ヤコブが生きていたとき、神は彼らの友でした。友情は死とともに終わりません。復活に対する最高の証明は主イエスであり、主が墓から立ち上がったときの死への勝利です。イエスが死者からラザロを立ち上がらせる前に、イエスは「わたしは復活であり、命である。わたしを信じる者は死んでも生きる。生きていてわたしを信じる者は、死んでも生きる。生きていてわたしを信じる者はだれも、決して死ぬことはない。このことを信じるか」(ヨハネ11：25)と強く言われました。イエスは私たちに同じ質問をされます。あなたは復活と、神との永遠の生命の約束を信じますか？

聖霊は私たちに神の終わることのない愛の永遠の真理と、神が永久に私たちと分かち合うことを望まれる生命について明らかにします。使徒パウロは預言者イザヤから引用して(イザヤ64：4、65：17)、「目が見もせず、耳が聞きもせず、人の心に思い浮かびもしなかったことを、神は御自分を愛する者たちに準備された」ことを神が「霊」によって明らかに示してくださいました。(一コリント2：9～10)と述べています。天の国の約束——天の至福と愛する神との終わることのない生命——は人間の予測を越えています。私たちは初めの果実を味わい始めたばかりです。あなたは今、来るべき時の生命の喜びと希望の中で生きていますか？

復活の生命についてイエスがあなたに告げていることをよく考えてみましょう。  
「主イエスが私たちの目においでくださいますように、そのとき私たちが目に見えるものではなく、見えないものも見始めるからです。主が、現在に関心を持つ目ではなく、未来に関心を持つ目を開いてくださいますように。霊魂の中に神を見つめるために、主イエス・キリストが心の目を開いてくださいますように。主の栄光と力は終わることなく続く時代を通して、ずっと持続するでしょう。」  
(Sr. Paulina)

「忍耐によって、あなたがたは命を勝ち取りなさい」（肋 21, 19）。

「忍耐」、ギリシャ語では、「何かの重圧のもとに留まる」との決意を意味しています。重圧を回避することを間雲に求めるのではなく、ましてや、重圧に敗北し、押し潰されてしまい、希望を喪失して、自分の本来の生きる道を変更するではありません。むしろ、その重圧の下で、自分の命をまっとうし、自分らしく生き抜く努力、これが、忍耐といわれる態度なのです。ですから、「忍耐」は、内・外の圧力のもとに生きることを、受容しています。イエスは、弟子たちに、将来、彼らの生命、自己、アイデンティティに対して挑戦してくる圧力がまったくないことを保証してはいません。むしろ、逆で、このような重圧は、必ず、いろいろの形態のものとして、弟子たちを襲う、と断言します。その圧力の下で、しっかりと、イエスの十字架の死と復活の栄光を証する「証人」として弟子たちは生きる、その試練の時を、彼らは、信仰者としての自己を完成させていただいてゆくチャンスとしてゆくののです。

未来にどのような重圧が、「いつ」、「どこで」襲ってくるか、この疑問を知ろうとする不安からの好奇心、あるいは、安全確保の願望が、常に、人類を惑わしてきました。しかし、イエスの預言は、将来、起こることの詳細な情報提供、あるいは、好奇心を満足させる「いつ」、「どこで」について答えるのではなく、「いつ、どこに」おいても、取るべき態度、心構えへの決断を促します。人間が予知能力を超える事態に対して、「今」、つまり、人間が遭遇するすべての瞬間に、どのような心構えを持つべきか、何をすべきか、このような質問に答えています。その態度とは、希望、警戒、祈り。

イエスの教えは、未来を前に苦悩に捕らえられるままになっていない、不安が誘発する欺瞞に巻き込まれないようにとの励ましで始まっています。信仰者たちの良心を迷わせようとする誘惑者が多数発生すると暗い場面を描くとしても、それは、驚愕させるためではなく、彼らの心を捉えようとする者たちのやり方の仮面を剥ぐためであり、苦悩への不安を増大させ、これに幻想への偽りの対処法を提供しようとする誘惑の真の姿を暴くためです。人間の歴史において決して欠けることがない、悲劇や無数の災害も、世からの逃避や焦燥に満ちた悲観主義の霊性を養うべきではないのです。「おびえてはならない」。むしろ、わたしたちの反応は、忍耐、希望と信頼に基づく態度です。ルカ渡辺幹夫

## 王であるキリスト

“これはユダヤ人の王”

(ルカ 23 : 35—43)

典礼歴の最後の主日に、教会は王であるキリストを祝います。この日は、1925年に教皇ピオ 11 世によって制定されました。王であり主であるキリストを黙想し、また同時に、世の終わり、再臨なさるキリスト、最後の審判について思い巡らすのにふさわしい日となるでしょう。

私たちの主イエスには、この世でも天においてと同じ権威や力が与えられていたことをあなたは認識していますか？イエスという方は、イスラエルの民だけでなく究極的には全ての人を救い治める王であると主張し、十字架につけられてしまいました。私たちにとってイエスが王でいらっしゃるということの意味を考えてみましょう。神は初め、イスラエルの民に王を与えることをお望みになりませんでした。神だけが彼らの真の王であるからです。それでも神は、民へのやさしい思いやりからダビデの家系に永遠に続く王制を築くことを約束なさいました。そこでユダヤ人たちは、救い主は神の支配を確立する王として来られると理解しました。外国人の圧政と支配から彼らを解放する王を望みました。多く人々はイエスが来るべき真の救い主の王であるという高い期待を持っていましたが、イエスが話し教え諭す真の王としての姿をほとんど理解しませんでした。イエスは滅ぶことのない王国のためにすべての人の精神（心）と魂をご自分のものとし、この王国にふさわしい者とするために来られました。滅んでしまう領土や栄誉のためではなく。

イエスが荒れ野で 40 日間断食されたとき、サタンはこの世のあらゆる誘惑をしかけて来ました。イエスは、この地上からサタンの力、罪の支配を一掃するために来られたのです。この使命を全うするための道は、御父のご意志に従い、十字架の上でご自分のいのちを生贖として差し出す以外にはないことをご存知でした。十字架上で苦しみを受け死に向かいながらもイエスは救いの手を差し伸べてくださいました；イエスの傍らで共に十字架にかけられていた罪人の一人が、イエスがみ国にお入りになったとき、自分を思い出してほしいと願ったのです。イエスはそのとき救いの恵みをお与えになりました。イエスが十字架の上で極限の苦しみに喘いでおられたとき、人々はイエスの王であるという主張をあざ笑っていました。それでも、イエスはユダヤ人の真の王として、また全ての人の真の王としてご自分のいのちを差し出されました。罪の支配、サタンに対してのイエスの勝利は、イエスの十字架上の死、そして復活によって成し遂げられました。イエスは辱めの十字架を栄光の玉座とし、罪の奴隷であった私たちに栄光の神の養子としての関わりを回復してくださいました。

福音は二つの王国を提供します。光に満ちた神の王国とサタンの支配する闇の王国です。神の王国は、神の永遠の愛と正義の上に建てられているので永久のものであります。イエスを真の主であり王として受け入れることは、正義、平和、真理、愛の満ちている王国に入ることです。あなたの日常生活はイエス キリストの愛の統治に従っていますか？

(Sr. Paulina)

高温注意報という聞きなれない天気予報、気温というよりまるで発熱時の体温のような数値が日本中を席卷して、人びとは猛暑の夏にあえいだのですが、四季の移ろいは裏切ることはなく、いつしか天は高々となり空はどこまでも青く澄みわたって、日差しはまぶしくなりました。

控え目に色づいた木の葉が早くも舞い散り、馥郁たる金木犀のオレンジ色が地面を染めて、其処ここで秋の気配です。先だつての仲秋の名月は煌々というにふさわしいそれは見事なもので、長いこと飽かず見とれていました。

主日、私ども夫婦は早朝のミサに与りますが、老いを重ね病を得て入院退院をくり返し、足元も覚つかなくなった夫は杖をつくようになり、近頃は二人三脚ならぬ二人五脚の道行きです。駅まで歩く時間は若い頃の倍以上もかかり、家を出る時刻は年々早くなります。

季節の移ろいは夫婦の五十余年の歳月とも合わさって、思いみれば秋の季節はとっくに過ぎて、冬も終わりに近いと云わねばなりません。

ホイヴェルス神父さまの詩にありました。

まことのふるさとへ行くために おのれをこの世につなぐくさりを少し  
ずつはずしていくのは真にえらい仕事 こうして何もできなくなれば  
それを謙虚に承諾するのだ

この頃になって、「はい」と承諾することの幸いを身にしみて知るようになりました。身に起こるすべてを引き受け肯くこと、そして、信頼をもって委ねることの深い深い安堵です。

詩にあるように、これまでできていた事ができなくなるにつれて、確かに信ずる世界の味わいは深まったと云えるのかもしれませんが。たとえそこに苦痛、困難をとまなうとしても、すべては恵みであることを、私を愛するために死んだお方との親密な長い交わりの中で、ひとつひとつを教えていただきました。そのお方への全身全霊でお応えする「はい」です

今、主日のミサに与ることが文字通り日々の活力の基であり、明日への望みとなっています。主イエズスの受難と死と復活は、思ってもみなかったほどに身近な感じがするのです。感謝の気持ちでいっぱいになります。

神の愛に新しく満たされた日曜日は、帰路もまた心楽しいひとときです。電車を乗り継ぎ8時半過ぎには駅に帰り着きますが、すでに開店しているパン屋さんがあるのです。



街路樹に面した大きなガラス窓の心地よいカフェテラスです。いつもここで焼きたてのパンとマグカップにたっぷりの熱いコーヒーで、朝食を兼ねてひと休みします。杖を置き背をのぼしゆったりと腰をおろして息をつきます。

たわいのないお喋りをし、心配ごとを語り、神さまの話もします。教会報や霊性センターニュースもここでゆったりと目を通します。

窓の外のテラス席には、私どもと同じく常連となっている大きな黒い犬が、散歩帰りでしょうか食事するご主人の足元に坐り、食卓から落ちるパン屑を待っているかの忠実な（信仰深い？）顔つきです。時々ちらっと目が合うので私はガラス越しに手を振ります。おなじみなので姿が見えないと物足りなさが残ったりします。

黒い犬にも会えたその日、うれしい出来事がありました。

家までの道すがら、突然に横道から小さな女の子が現れました。やっとのよちよち歩きですが、二人五脚のよちよち歩きとは大違いで、何もかもこれからの瑞々しい希望の始まりなのです。びっくりしたことに私どもの真ん前に立ち止まり、こぼれんばかりのにこにこ顔をかしげ、言葉にならない言葉でしきりに挨拶をしてくれます。ピンクのシャツがよく似合っていて、丸い玉のついた髪飾りで結んだポニーテイルが何とも云えない愛らしさです。こちらを誘われてにこにこ顔になって「おはようございます」と返礼。するといつの間にか隣に立った若い男性を指さして「これわたしの父です」という身ぶり手ぶりでまたまた輝く笑顔です。「パパですか」と返ししながら、思わずしゃがみ込んで頬に触れ、目を見つめ合って笑い合いました。

瞬間、満ち満ちるものが光のように降り注ぎ、情景のひとつひとつ全てが、これしかないという必然を示しました。この時この今この歓びが、世界中の祈りに支えられて存在し、世界中の歓びにつながっているのだと心から知ったのです。和やかな幸福感に包まれて、私は瞑目しました。

イテ・ミサ・エスト—— 感謝の祭儀を終えて派遣される私たちは、苦しみのない快適さへと行くことはないでしょう。深いよろこびと感謝の念は、必ずどこかで深い悲しみと痛悔の念とひとつであることを知っています。そして如何なる状況のただ中へ行くとしても、「世の終わりまでいつも共にいる」と言うてくださるお方と一緒にいることを、私の魂は忘れたことはありません。

心をこめて唱えます。 —— デオ・グラチアス

# いのちの言葉 11月

互いに親切にし、憐れみの心で接し、  
神がキリストによってあなたがたを赦してくださったように、  
赦し合いなさい。

(エフェソの信徒への手紙 4・32)

このみ言葉は、本質的で具体的な生き方を私たちに示しています。これを生きるだけでも、皆が兄弟として連帯して生きる社会を築くには、十分でしょう。出典の「エフェソの信徒への手紙」の中で、パウロは小アジアのキリスト者に向けて、他にも多くの勧めの言葉を語っています。

当時の小アジアでは、ユダヤ人と異邦人の対立が見られましたが、キリスト者共同体の中では、彼らの間にも「平和」が実現していました。

キリストは私たちに一致を与えてくださいました。私たちは互いに愛し合いながら、この一致を生き生きと保ち、社会の中で具体的に証しするよう招かれています。そのために私たちが隣人との関係をどう生きればよいかを、今月のみ言葉は示しています。

互いに親切にし、憐れみの心で接し、神がキリストによってあなたがたを赦してくださったように、赦し合いなさい。

「親切」とは、相手の善を望むことです。相手の重荷や苦しみ、必要性を共に担い、喜びも分かち合うため、自分をからっぽにし、自分の関心や考え、多くの先入観を脇に置いて、兄弟と「一つになり」、相手の話に耳を傾けることです。

私たちは、出会う兄弟一人ひとりの心の中に入っていき、相手の考え方や文化伝統を理解するよう努め、それをある意味で「自分のものにする」ことができるでしょう。相手にとって本当に必要なものを理解し、各々の中に神が蒔かれた良い価値観の種を見出すためです。一言で言うなら、「親切」とは、隣人のために生きることでしょう。

また「憐れみの心」とは、相手をありのまま受け入れることです。

私たちは、隣人の性格が変わるように望んだり、自分と同じ政治観や宗教を持ってもらいたいと思ったり、相手の欠点や態度が気に障って、それがなくなってほしい、と願ったりします。しかし、そうではなく、私たちは心を広げて、自分とは異なるすべての人を、相手の限界やみじめさも含めて、受け入れる必要があるでしょう。

「赦し」とは、相手をいつも新しい目で見ることです。

家庭や学校、職場でも、衝突や意見の相違、対立はよく見られます。話をしなくなったり、顔を合わせるのも避けたり、自分と考えの違う人に対して憎しみを抱いたりする場合さえあります。私たちは毎日まわりの人をまったく新しい目を見て、前に相手から受けた傷を思い起こさずに、すべてを愛で覆う努力をするよう求められているでしょう。神がすべてを赦し、忘れ去ってくださるように、私たちも心の底から完全に兄弟を赦すことです。

「親切」「憐れみの心」「赦し」を個人だけでなく、皆で共に実践する時には、真の平和と一致が生まれてくるでしょう。

暖炉で火を燃やす時、薪が灰で覆われないように、時々動かしますが、相互愛につ



いても同じことが言えます。私たちが築く人間関係の上に、無関心や無感動、エゴという「灰」が積もってしまわないよう、時々、相互愛を生きる決心を新たにする必要がありますでしょう。

互いに親切にし、憐れみの心で接し、神がキリストによってあなたがたを赦してくださいのように、赦し合いなさい。

私たちは、具体的な行いを通して、このみ言葉を実践するよう招かれています。

イエスご自身、病人を癒し、群衆の飢えを満らし、死人をよみがえらせ、弟子たちの足を洗うことを通して、愛とは何かを示されました。具体的な行い、これが愛なのです。

あるアフリカ人の母親がした体験が思い出されます。彼女にはロサンジェラという娘がいました。ある時、一人の乱暴な少年の投げた棒が目にあたり、ロサンジェラは片目の視力を失いました。ところが少年は態度を改めず、ロサンジェラをからかい続けたばかりか、彼の親からも謝罪の言葉はありませんでした。相手側のこのような態度に、ロサンジェラの母親はひどく苦しみました。娘は少年を赦し、「お母さん、心配しないで。まだ片方の目が見えるから、大丈夫よ」と言っていました。

その後で起こったことを、母親は次のように語ってくれました。

「ある日、少年の母親が人を介して『具合が悪いから来てほしい』と私を呼びました。私はとっさに『どうということなの。近所にはたくさん人がいるでしょうに、息子があんなことをした後で、私に助けを求めてくるなんて』と思いました。

でも、愛には障害物がないことをすぐに思い出し、彼女のもとに出かけました。家の扉を開けた彼女は、私の腕の中に倒れました。病院に連れて行き、医者の治療が始まるまで、そばにいてあげました。一週間後、彼女は退院し、感謝するため私の家にやって来ましたが、私は彼女を心から迎え入れ、赦すことができました。今では、関係は元通りになりました。むしろ、すっかり新しい関係になったと言えます。」

私たちも一日中、謙遜さと賢さを伴う、具体的な奉仕を通して、愛を表現することができるでしょう。こうして、私たちの周りにも、兄弟愛と平和が広がっていくのを目にするでしょう。

キアラ・ルービック

\* 今月の言葉は2006年8月に発表されたものです。

★ いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

連絡先

フォコラーレ: 03-3707-4018/03-5370-6424

E-mail:tokyofocfem@ybb.ne.jp

ホームページ:フォコラーレで検索

<http://focolare.world.coocan.jp/>

# ヘンリ・ナーウエンの 旅路の糧（170）



## キリストの内にお互いを知ること

しばしば私たちは、聖体祭儀の食卓のまわりに集う前に、まずお互いを知り、理解しなければならぬと考えています。キリストの体と血を分ち合う人々が、お互いを個人的に知るならば、それは良いことではあるでしょうが、聖体祭儀に定期的に共に集うことは、人間的に「お互いを知る」さまざまなレベルをはるかに超える霊的な一致を創り出すのです。聖体祭儀に参加することによって、イエスの死と復活の聖なる神秘の中に共に入って行く時、私たちは、徐々に一つの体となっていきます。私たちは、キリストの「内」にお互いを真に知るようになるのです。

(1011)

## 苦しんでいる共同体の中にキリストを見出すこと

共同体も、個人同様、苦しみます。世界中、迫害され、虐待され、酷使され、恐ろしい犯罪の犠牲者となっている人々の大きな集団があります。苦しんでいる家族、苦しんでいる友人の仲間たち、苦しんでいる修道者の共同体、苦しんでいる少数民族のグループ、苦しんでいる国々。これらの苦しんでいる人々の生身の体の中に、私たちは、苦しんでいるキリストを見出さなければなりません。彼らも選ばれ、祝福され、砕かれ、世界に与えられているのです。

私たちがこれらの人々の叫びに応えるために、また正義と平和のために共に働くために、お互いに呼びかける時、私たちは、世界の救いのために苦しみ、亡くなったキリストのためにその苦しみを耐えているのです。

(0719)

(九里 彰訳)

# 跣足カルメル修道会HP (International)

世界的な跣足カルメル修道会のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com>



ORDEN  
CARMELITAS DESCALZOS  
• CURIA GENERAL DEL CARMELO TERESIANO •

<< Communications (時事通信) >>

## バレストレロ枢機卿 (跣足カルメル修道会) の生誕百周年記念式典

2013年10月18日発

アナスタシオ・アルベルト・バレストレロ枢機卿の生誕百周年記念式典が、10月の第一週目にイタリアのトリノ市で荘厳に執り行われました。

10月3日の式典は、枢機卿の生涯のもっとも重要な側面を網羅した三つの講話から成る、幾分、アカデミックな性質のものでした。ローマの総長館から、総長顧問のアルベルト・ワッハ神父とロベルト・パウロ神父が、また“列福・列聖手続き申請総担当”のロマノ・ガンバルンガ神父が列席されました。ガンバルンガ神父は、この式典に伴う希望を強調するため、すなわち、バレストレロ枢機卿の列福調査手続きが開始されたというニュースを伝えるために、来られました。

列福調査の最初の段階はすでに取られています。

その後、カテドラル聖堂内の南側には、バレストレロ枢機卿のカルメル会と教会への奉仕の旅を示す写真や書籍が8枚のパネルで展示されました。

また10月5日には、サンタ・テレサ教会でコンサートが催され、サヴォナ教会の聖歌隊がピエルジョジョ・ラドン神父の指揮によりデビューいたしました。その曲目は二部から成り、第一部は“信仰年”にちなんだ歌で、第二部は、カルメルの霊的インスピレーションをもった歌が披露されました。



\*\*\*\*\*絵本のための小さなおはなし\*\*\*\*\*

## 「からすうりの実のフレスコの絵のお話」

ピアニストが、ピンと糊のきた燕尾服を着て、練習しています。毎日ドレスアップして練習しないと、気分が乗らないのです。

「ドレドレ、ドレドレ」

日がな一日、これだけです。

ある日ピアニストは疲れて、窓の外を見ました。

からすうりの実が、ほんのりオレンジ色に光って、笑いかけました。

「ピアニストさん、外に散歩にいらっしやいな。秋の風を感じに。そうすれば、あなたのピアノももっとよくなりますよ」

そこでピアニストは毎日、アロハシャツに着替えて散歩に行くようになりました。

「ドレドレ、ドミソラ」

ピアニストの修業はまだまだ続きます。

いつか、88鍵全部の音を十本の指だけで一度にピアノッシモでならして、ひとつも不協和音でない音が出せる日が来るでしょう。神の国の完成に向かって、毎日毎日、歴史は進んでいるのです。



# カルメル会の企画案内



## 上野毛霊性センター ～ '14年3月

黙想企画 \*\* 聖テレジア修道院 (黙想) \*\*

1. 木曜黙想会 (毎回木曜日 10時～16時) 予約は3ヶ月前より受け付けします。  
2013年度 年間テーマ 「信仰と宣教」  
11月14日 「カルメルにおける宣教」 中川博道神父  
12月5日 「神の愚かさ、宣教の愚かさ」 福田正範神父  
2014年  
2月20日 「復活の主の第一の使信」 福田正範神父
2. 金曜黙想会 (毎回金曜日 10時～16時) 予約は3ヶ月前より受け付けします。  
2014年  
1月24日 「カルメルの霊性・聖母マリア」 福田正範神父
3. 奉献生活者の為の黙想会  
12月27日(金) 18時～2014年1月5日(日) 古川利雅神父
4. 青年黙想会(男女) 福田正範神父、カルメル会士  
11月2日(土) 15時～4日(月・振休) 16時
5. 特別黙想会 伊従信子(ノートルダム・ド・ヴィ)  
11月8日(金) 20時～10日(日) 16時
6. 祭日のミサに参加するために  
【クリスマス】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時  
2013年12月24日(火)～25日(水) 《講話なし、夕食なし》



電話でのお問い合わせは午前9時から午後4時45分までをお願いします。  
またお申し込みは電話でもお受けしますが、間違いを避け、時間も問いませんので、  
なるべく FAX・はがき・Eメールでお願い致します(お返事はいたしません)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25 聖テレジア修道院(黙想)

TEL 03-5706-7355 / FAX 03-3704-1789 ※FAX 番号が変更されました。

E-mail: mokusou@carmel-monastery.jp





# カルメル青年黙想会

## 私は主を見ました —イエスの福音を伝える—

信仰年がもう少しで終わります。この信仰年、教会はシノドス「新しい福音宣教」を始めに、回勅「信仰の光」の発布、そして7月に開催されたワールドユースデーにて教皇様は、「行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい」(マタイ28:19)をテーマに宣教を強調されました。

信仰年の終わりにあたり、今まで見つめてきた信仰・希望・愛、カテキズム、公会議の精神などの基本事項を踏まえた上で、宣教について見つめたいと思います。



- 日時 : 11月2日(土) 15時 ~ 4日(月) 16時  
 場所 : カルメル会 聖テレジア修道院(黙想)  
 対象 : 高校生以上の青年男女(35歳まで)  
 定員 : 20名  
 費用 : 一般 10,000円 学生 7,000円  
 締切 : 10月26日(土) <必着>  
 指導 : 福田正範神父・カルメル会士

※住所・氏名・性別・年齢・電話番号・所属教会名を記入し、ハガキ・FAX・E-mailの何れかで下記まで。折り返し、こちらよりご連絡させていただきます。



158-0093 世田谷区上野毛2-14-25  
 カルメル会 聖テレジア修道院(黙想)  
 電話 : 03(5706)7355  
 FAX : 03(3704)1789  
 E-mail : mokusou@carmel-monastery.jp



特別黙想会 <わたしは神をみたい>

2013年11月8日（金）20時～10日（日）15時

信じる者にしてください

「信仰年」を終えるにあたり、

日々の生活のなかで復活されたキリストと出会うために

しばらく神のみ前に 静かなひとときを過ごしてみませんか？

神は いつも

あなたの心の深みにおいでになります。

その存在を 感じるができないときでも  
そこで 主はあなたを待ち

「素晴らしい交わり」を  
もつことを望んでおられます。

～ 三位一体のエリザベット～



- 指 導： 伊従 信子 （ノートルダム・ド・ヴィ会員）
- 持参品： お持ちの方は『いのちの泉へ』、『神は私のうちに、私は神のうちに』  
『光、愛、命へ』三位一体のエリザベット最後のことば（ドン・ボスコ社）
- 参加費： ￥12000
- 場 所： カルメル会上野毛聖テレジア修道院（黙想の家）  
158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25 Tel 03-5706-7355
- お申込み： F A X：03-3704-1789 Eメール：[mokusou@carmel-monastery.jp](mailto:mokusou@carmel-monastery.jp)  
または、ハガキにてお申込み下さい。

# 木曜黙想会

---

2013年度年間テーマ《信仰と宗教》

「神の愚かさ、宣教の愚かさ」

日時： 2013年12月5日（木） 10時～16時

指導： 福田 正範 師（カルメル会上野毛修道院司祭）

場所： カルメル会上野毛聖テレジア修道院  
（黙想の家）

会費： ￥3500（昼食を含む）



お問合せ・・・TEL 03-5706-7355

FAX 03-3704-1789

Eメール：[mokusou@carmel-monastery.jp](mailto:mokusou@carmel-monastery.jp)

お申込み・・・\*黙想会の3か月前より申込みを受付します

FAX、メール、ハガキにてお願い致します。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

カルメル会聖テレジア修道院（黙想）



## 講座のご案内

■場所：カトリック上野毛教会（信徒会館ホール）

■担当：中川博道（カルメル修道会）

■どなたでもいつからでもご参加ください



## カルメルの靈性に親しむ

いずれも 金曜日

朝のクラス ≪10:30~12:00≫ 夜のクラス ≪19:15~20:45≫

11月15日
12月13日
2014年 2月14日
3月7日

## 生ける神との出会いを探して

—靈性神学入門講座 / キリスト教入門講座—

いずれも 金曜日

朝のクラス ≪10:30~12:00≫ 夜のクラス ≪19:30~21:00≫

13	11月8日	「教会：キリストに呼び集められた人々の集まり」(1)
14	11月22日	「教会：キリストに呼び集められた人々の集まり」(2)
15	12月6日	「キリストと共に歩む道」(1)
16	12月20日	「キリストと共に歩む道」(2)
17	2014年 1月10日	「キリストと共に歩む道」(3)
18	1月24日	「主の祈り」
19	2月7日	「キリスト者が大切にしている事」
20	2月21日	「秘跡」(1)
21	3月14日	「秘跡」(2)

お問合せ: carmel-reisei@hotmail.co.jp

## 2013年 黙想会案内 (宇治カルメル会)

【一般のための黙想】 1泊2日 (午後5時～午後4時)

11月2日(土)～3日(日) 信仰と行い 九里彰神父

【聖書深読黙想会】

- 1日黙想 (午前10時～午後4時)

11月30日(土) 九里彰神父

- 水曜の黙想 (午前10時～午後4時)

11月13日(水) キリスト教神秘を祝うカテキズム 松田浩一神父

12月18日(水) クリスマスを迎える心 今泉健神父

- 待降節の黙想 (午後5時～午後4時)

12月14日(土)～12月15日(日) 松田浩一神父

人間となった神の子への信仰

- 聖テレーズの黙想 (午後5時～午後4時)

9月30日(月)～10月1日(火) 伊従信子師

カルメル青年黙想会 (午後5時～午後4時)

11月9日(土)～11月10日(日) キリストはあなたを呼んでいる 今泉健神父

奉獻生活者の黙想 (午後5時～午前9時)

12月27日(金)～1月5日(日) 松田浩一神父

祭日のミサに参加するために

【クリスマス】 チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11時

12月24日(火)～12月25日(水) [講話なし、各食事つき]



—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。—

☆お申し込みは、電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールで お名前と連絡先を御記入の上、お申し込み下さい。お電話は、なるべく午前9時～午後5時の間にお願いいたします。受け付けが休みの場合は、その場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様にお願いいたします。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)

Tel 0774-32-7016, Fax 0774-32-7457

E-Mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

# カルメル 青年黙想会

テーマ：キリストはあなたを呼んでいる



日時：2013年11月23日（日）午後4時～11月24日（月）午後4時

場所：宇治聖テレジア修道院（黙想）

対象：30歳までの青年男女

会費：5,500円（学生は3,000円）

スタッフ：松田神父、今泉神父、カルメル宣教修道女会シスター

お申込み：〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12

カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

TEL：0774-32-7016

FAX：0774-32-7457

Email：teresiauji@mountain.ocn.ne.jp



# 『社会人(働いている人)のための霊的同伴』

## — 日常のキリスト教霊性を求めて —

日々、現代社会で忙しく働いている皆様に、この静かな一時を提供する企画です。この一泊の企画は、キリスト者の霊的・心的修養を目的として、**霊的同伴(スピリチュアル・コーチング)**を中心としながら、皆様のお手伝いをします。

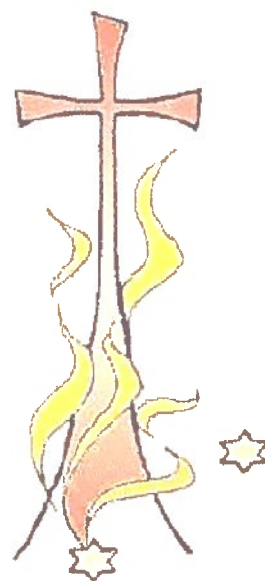
### 【内容】

- この企画は、個人的霊的修養でもありますので、一般的な講話はありません。
- 各人の信仰からの日常生活を見つめる視点(霊的理解)を促進しますので、この静かな一時の中で短い個別同伴(一人 30 分)を行います。
- メソッドの一つとしてスピリチュアル・コーチングを適用して、参加者一人ひとりの視点を尊重します。
- キリスト者としてのパーソナルな統合はキリストのうちに行為されるものですので、信仰・希望・愛を培い、この三つの対神徳をベースにおいて行います。

【参加者人数】 6 人

### 【開催日】

- |   |       |                   |
|---|-------|-------------------|
| ① | 2013年 | 1月25日(金)～26日(土)   |
| ② |       | 2月 8日(金)～ 9日(土)   |
| ③ |       | 3月 8日(金)～ 9日(土)   |
| ④ |       | 4月12日(金)～13日(土)   |
| ⑤ |       | 7月12日(金)～13日(土)   |
| ⑥ |       | 9月 6日(金)～ 7日(土)   |
| ⑦ |       | 10月11日(金)～12日(土)  |
| ⑧ |       | 11月22日(金)～23日(土)  |
| ⑨ |       | 12月 6日(金)～ 7日(土)  |
| ⑩ | 2014年 | 1月24日(金)～25日(土)   |
| ⑪ |       | 2月21日(金)～22日(土) ☆ |
| ⑫ |       | 3月28日(金)～29日(土)   |
- (毎回金曜日 20 時(夕食なし)～土曜日 15 時)



【参加費】 各回 5,500 円

【霊的同伴】 松田浩一神父(カルメル会士)

【申込み方法】 参加希望者は、前日の木曜日 16:45 迄に、下記の聖テレジア修道院(黙想)へ FAX、はがき、Eメールで申し込んでください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12  
 カルメル会宇治聖テレジア修道院(黙想)  
 Tel 0774-32-7016、Fax 0774-32-7457  
 E-Mail: [teresiauji@mountain.ocn.ne.jp](mailto:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp)

# 「立ちどまって、ひとりになって、聴いてみよう！」

## …～都会の中の一泊静修～（2013）…

(テーマ) 信仰年の課題 「イエス・キリストのセンスを磨く」 …2000年の時を貫いてきた教会の信仰…

「『信仰の門』（使徒言行録 14・27）は常にわたしたちに開かれています。それはわたしたちを神との交わりの生活へと促し、神の教会へと導き入れてくれます。神のことばがのべ伝えられ、わたしたちを造り変える恵みによって心が形づくられるとき、わたしたちはこの門を通ることができます。この門に入るとは、生涯にわたって続く旅に出発することです。

信仰は、それを愛が与えられる経験として生き、恵みと喜びの経験として伝えられることによって、成長します。信仰はわたしたちを豊かにします。」（「信仰の門」より）

今年の信仰年は、わたしたちを「キリストのように考え、キリストのように話し、キリストのように行い、キリストのように愛する」ことへと招いています。この呼びかけに従って生きることは、わたしたちの中にキリストのセンスを磨いていきます。

「一泊静修」が、信仰のうちにキリストを生き抜いた先達たちの生き方に学ぶ一助となりますように。

回	月 日	テーマ	
第1回	1月14日(月)	信仰年を生きる「信仰の門」を巡って —イエスご自身の信仰—	中川博道神父(上野毛修道院)
第2回	2月23日(土)	マリアの信仰	Sr.パウリン(宣教カルメル修院)
第3回	3月23日(土)	テレーズの信仰	三上和久神父(三馬修道院)
第4回	4月13日(土)	使徒たちの信仰	今泉健神父(宇治修道院)
第5回	5月11日(土)	初代教会の信仰	松田浩一神父(宇治修道院)
第6回	6月22日(土)	殉教者の信仰	九里彰神父(本部修道院)
第7回	7月13日(土)	イエスの聖テレサの信仰	古川利雅神父(上野毛修道院)
第8回	9月7日(土)	聖家族の信仰 家庭・職場・地域で信仰を生きる	伊従信子師(ノートルダム・ド・ヴィ)
第9回	11月23日(土・祝)	十字架の聖ヨハネの信仰	福田正範神父(上野毛修道院)

- \* 時間 AM10:00～PM4:00
- \* 場所 カトリック日比野教会(地下鉄・名城線日比野下車徒歩約5分) \*聖テレジア幼稚園隣接
- \* 参加費 1,000円
- \* 持ってくるもの 聖書、筆記用具、ロザリオ、弁当
- \* 定員 約30名
- \* プログラム
  - 10:00～ 祈り・導入・黙想
  - 10:30～ 講話(1)
  - 黙想・赦しの秘跡または面接
  - 11:50～ 昼の祈り・お告げの祈り
  - 12:15～ 昼食
  - 12:50～ 黙想・赦しの秘跡または面接
  - 13:30～ 講話(2)
  - 14:45～ ミサ
  - 15:30～ 茶話会・分かち合い
  - 16:00～ 終了予定

☞ 申し込みは、下記の住所へハガキか FAX で、氏名・住所・TEL、(所属教会)を記載の上、開催日の3日前までに必着のこと。なお、日比野教会で葬式などがある場合は、中止となりますので、ご了承下さい。

☆ 名古屋カルメル霊性センター

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17 カルメル会日比野修道院

FAX 052-671-1825

一泊静修連絡係 〒465-0058 名古屋市名東区貴船3-2115 小林 厚・晃子

TEL・FAX 052-701-3685

## ☆霊性センター

カルメルの霊性「祈り」を知るために。

どなたでも気軽にご参加下さい

毎月第一日曜日 三馬教会 聖堂

14:30～講話（カルメル会司祭）

15:30～ミサ（賛歌ラテン語）

## ☆土曜フレックスタイム静修

御自分の都合に合わせて好きな時間に参加でき、

霊的にだけではなく、心身共にリフレッシュ出来る時

間として 御利用下さい。

毎月第三土曜日 三馬教会 聖堂

13:30～聖書朗読、短い講和

14:30～ベネディクション、聖体顕示

15:30～聖体拝領

16:00～サルヴェレジナ、終了

各合間の時間は、各自自由に黙想しながら祈る時間です

カルメル会三馬修道院 三上和久神父



カルメル霊性センター

〒921-8162

金沢市三馬3丁目324番地

カルメル会 三馬修道院

三上 和久神父迄

Tel. 076-244-7788

## 聖書深読センターのご案内

- 1 東 京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。
- 2 宇 治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。

## 通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち2箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

### 1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 18,900円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は 16,900円

講師：九里彰師（奇数月） 今泉健師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル

私書箱 21号 朝日カルチャーセンター通信講座部

電話 03-3344-2527（直通）

### 2 ミニ深読

グループで2、3時間かけて聖書深読法の一部を行います。

聖書深読黙想会に参加経験のある方に限ります。

遠方に、参加希望者が多数いる場合には、有光、またはSrパウリーナが指導に行くことも可能です。

問い合わせは「聖書深読センター」事務局 Srパウリーナまでご連絡下さい。

◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センターにお問い合わせ下さい。



聖書深読センター

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：奥村一郎神父 事務局長：今泉健神父 連絡先：Srパウリーナ

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール [carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp](mailto:carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp)

# 諸所の企画案内



心のいほり 内観黙想センター  
真命山 霊性交流センター  
リーゼンフーバー神父キリスト教講座  
ノートルダム・ド・ヴィ  
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院  
サダナ瞑想  
CWC (キリスト者婦人の集い)  
慈しみ深き会

## ※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。  
記載には注意を期しておりますが、  
詳細は各問い合わせにご紹介下さい。  
よろしくお願い致します。



## 諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

### 心のいほり 内観黙想センター

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などにご注意ください。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み関西地区の会場は6万円、他地区は6万5千円です。

◎Eメール・ファックス・手紙でセンターに問い合わせてください。電話では取り次いでおりません。

申し込みは10日前迄に完了、お願いします。会場予約準備がありますので。

◎572-0001 大阪府寝屋川市成田東町3-27「心のいほり 内観黙想センター」藤原神父  
FAX 072・802・5026 Eメール [fujinao1944@nifty.com](mailto:fujinao1944@nifty.com)  
<http://www.com-unity.co.jp/naikan> (ホームページ・アドレス)

◎予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

(★)印の会場では、藤原神父以外の司祭も面接同行する可能性があります。

6泊7日 開始日午後2時より 終了日午後2時まで

#### 2013年予定

T 2 10/28 (月) -11/3 (日) 兵庫西宮・女子トラピスチヌ

N 4 11/25 (月) -12/1 (日) 滋賀唐崎・ノートルダム

#### 2014年予定

K1 1/25 (土) -1/31 (金) 東京・小金井・聖霊会

M1 2/9 (日) -2/15 (金) 宝塚売布・女子ご受難会

N1 2/24 (月) -3/2 (日) 滋賀唐崎・ノートルダム

K2 3/22 (土) -3/28 (金) 東京・小金井・聖霊会

S1 3/30 (日) -4/5 (土) 千葉白子・十字架 イエスベネディクト会

N2 4/30 (水) -5/6 (火) 滋賀唐崎・ノートルダム

K3 6/14 (土) -6/20 (金) 東京・小金井・聖霊会

T1 7/25 (金) -7/31 (木) 兵庫西宮・女子トラピスチヌ

M2 9/9 (火) -9/15 (月) 宝塚売布・女子ご受難会

K4 9/27 (土) -10/3 (金) 東京・小金井・聖霊会



## イエス様に祈りを学ぶ

### 真命山の靈性



祈りの集い（午前10時～午後3時）

年間の一般のテーマ： イエス様に祈りを学ぶ

### 自然

神はすべてを作り  
人の手に委ねられた

陽の昇るところから  
陽の沈むところまで

### 祈り

### 静けさ

沈黙の中に神の  
言葉を聞こう

信仰体験を  
分かち

### 交わり

- 1月10日 ナザレの聖家族の生活における祈りの重要性
- 2月14日 イエスの生涯における祈り
- 3月14日 死を前にしたイエスの祈り
- 4月11日 最後の晩餐におけるイエスの祈り
- 5月9日 イエス・キリストのメシアとしての喜びの賛歌
- 6月13日 いやしの奇跡とかかわるイエスの祈り
- 7月11日 主よ、私たちに祈りを教えてください！
- 8月 休み
- 9月12日 イエスの「大祭司の祈り」（ヨハネ17）
- 10月10日 神との関係における沈黙の大切さ
- 11月14日 イエスと神殿（ルカ2,46 ヨハネ2,21）
- 12月12日 神の「幕屋」であるイエス（ヨハネ1,14）

#### 指導者

フランコ・ソットコルノラ神父  
（真命山院長）

ダニエレ サルティ・サルトリ  
神父

Sr.マリア デ・ジョウルジ

#### 申し込み先

865-0133

熊本県玉名郡和水町1391-7

真命山諸宗教対話・靈性交流センター

TEL 0968-85-3100

Fax 0968-85-3186

E-mail: shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

www.shinmeizan.org

個人またはグループでの黙想会や研修会も歓迎いたします。  
（要予約）

●キリスト教入門講座

金曜日 18時45分～20時30分  
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。  
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。

●キリスト教理解講座

毎月第1・第3・第5火曜日 18時45分～20時30分  
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール  
キリスト教の基礎知識を持っている方。2年間のコース。信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心的テーマを探求します。

●土曜アカデミー 以下の土曜日、  
9時30分～12時15分、岐部ホール4階404、  
各時代の文書を読んで、思想史一般とキリスト教哲学・神学の相互関係を考察します。キリスト教思想史に関心を持っている方、プログラム等に関してはHP(文末)を見て下さい。

2013年度のテーマ:

超越理解と理性の自己発見 — I 古代と中世  
「中世：哲学・神学・神秘思想」(9世紀～15世紀)  
[初期スコラ学]

11/09

[盛期スコラ学]

11/30,12/07,12/21,01/11

●ミサ

水曜日 17時10分～18時 上智大学内クルトウルハイム1階右小聖堂。どなたでも。但し祝日、8月全体、12月25日は休み。

●黙想

・「会社帰りの黙想」毎月第2・第4火曜日 18時45分～20時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂  
どなたでも。但し祝日、8月13日は休み。8月27日はクルトウルハイム聖堂

・「お昼の黙想」毎月第1・第3火曜日 10時40分～12時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂  
どなたでも。但し祝日は休み。

・水曜日 18時～18時30分 上智大学内クルトウルハイム1階右、テレジア小聖堂  
どなたでも。但し祝日、8月全体、12月25日は休み

・「通う霊操」8月24日(土)～9月1日(日)18時～20時45分 上智大学内クルトウルハイム聖堂

●祈りの集い

・下記の土曜日 13時30分～16時 上智大学内S.J.ハウス、第5会議室

講話、黙想、ミサがあります。

11月9日、12月7日

2014年1月11日、2月8日、3月1日

・ロザリオの祈り(同日、ミサに続いて)16時10分～16時50分 上智大学内クルトウルハイム1階右、小聖堂

●黙想会

[関東] 1泊6,600/6,800円程度。

11月16日(土):10時～17日(日)14時(上石神井)

2014年

03月08日(土):10時～9日(日)14時(上石神井)

[関西]

●坐禅会

・月曜日 17時20分～20時10分

・木曜日 18時～20時30分

上智大学内クルトウルハイム1階左の部屋。但し祝日、5月2日、8月全体、12月26日、30日、1月2日は休み  
3回坐り、間に講話

●坐禅接心

[秋川神冥窟] 1泊2400円(+暖房費)程度。

11月1日(金)20時30分～11月4日(月)13時

●アガペ会

下記の日に説明会(13時30分)と集い、ミサ(14時～18時)。上智大学内S.J.ハウス、第5会議室

10月20日(日)、2014年1月25日(土)

●クリスマス

クリスマス会

12月14日(土)16時～20時30分。岐部ホール4階、404(予定)。要申し込み。

クリスマスのミサ

12月23日(月)14時～上智大学内クルトウルハイム聖堂(80人限定)。

## リーゼンフーバー神父キリスト教入門・理解講座

リーゼンフーバー神父キリスト教

入門講座 2013年

日時 毎週金曜日

18時45分～20時30分

リーゼンフーバー神父キリスト教

理解講座 2013年

日時 第1・3・5火曜日

18時45分～20時30分

11/01 父と子と聖霊— 神の生命に与る  
11/08 信仰の決断— 支えられて生きる  
11/15 ミサ祭儀— 神への奉仕と生活の糧  
11/16-17 ●黙想会(上石神井)  
11/22 自己実現と神の意志— 生き方の規範  
11/29 人間の弱さ— 罪とは何か  
12/06 恵みとゆるし— 神の憐れみを受ける  
12/13 愛の心— キリスト教の本質  
12/14 ◆クリスマス・パーティ(16時ミサ、17時30分パーティ、岐部ホール4階404。要申し込み)  
12/20 隣人愛— 他人の内にイエスに出会う  
12/23 ◆クリスマスミサ(14時、上智大学内クルトウルハイム2階、80人限定)  
12/27,1/3○休み  
1/10  
希望を持つ勇氣— 未来に向かって歩む  
1/17  
霊の動き— 福音による生き方  
1/24  
秘跡と教会生活— 毎日を養う信仰  
1/31  
神の言葉— 神との日常的な対話と黙想の仕方

[日常生活]

11/05 対人関係と友愛— 恵みである他者  
11/16-17 ●黙想会(上石神井)  
11/19 身体と生命— 性と倫理  
12/03 家庭と独身生活— 与えられた招きの発見  
12/14 ◆クリスマス・パーティ(16時ミサ、17時30分パーティ、岐部ホール4F、要申し込み)  
12/17 仕事と祝い— 能力の活性化と人生の実り  
12/23 ◆クリスマスミサ(14時、上智大学内クルトウルハイム2F、80人限定)  
01/07 困難と苦しみ— 謙遜な自己奉獻と神への信頼

[信仰の実現]

1/21 教会生活とミサ— 「キリストの体」の神秘  
2/04 秘跡の恵み— たえざる刷新と神のいのちの深まり  
2/18 祈りの本質と靈的読書— キリストとの心の交流  
3/04 創造的靈性— 活動における観想  
3/08-9 ●黙想会(上石神井)  
3/18 「聖徒の交わり」— 信仰の内に支え合う

《場所・お問い合わせ》

聖イグナチオ教会(四ツ谷駅前)

信徒会館3階

アルペホール TEL 03・3263・4584

クラス・リーゼンフーバー神父

〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1

上智大学SJハウス

電話 03-3238-5124(直通) -5111(伝言)

Fax 03-3238-5056



※リーゼンフーバー神父様HPアドレス

[http://www.jesuits.or.jp/~j\\_riesenhube/](http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/)

1年の終わりの静修日

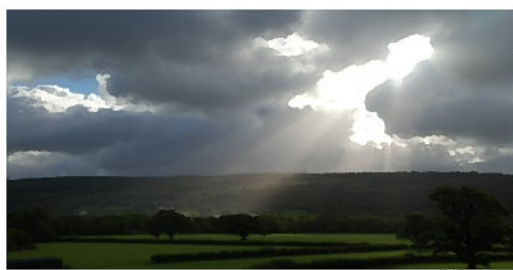
2013年12月28日（土曜日）

信仰年が終わった2013年の年末

1年の振り返りと新しい年を迎えるにあたり

神の慈しみへの希望と信頼を深めるために

師走のひと時を静けさのうちに過ごしてみませんか



—プログラム—

- ◆ 2:00 沈黙の祈り
- ◆ 2:30 ~ 3:30 講話
- ◆ 3:30 ~ 4:00 沈黙の祈り
- ◆ 4:00 ~ 5時半ごろ お茶・質疑応答・マリア賛歌

場所：ノートルダム・ド・ヴィ 参加費：200円

\*\*\*\*\*

お申込み・問い合わせ ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail notredamedevie.japan@gmail.com

ホームページ <http://www.ndv-jp.org/>

\*\*\*\*\*

尚、通常の祈りの集いは2013年12月14日（土）です。

## いのちの泉へ（ノートルダム・ド・ヴィ）

- 「いのちの泉へ」  
すべての人のための祈りの集い

カルメルの靈性に学びつつ、キリスト者としての靈性を養うための講話と、沈黙の祈りで構成された集いです。カルメルの靈性を、より深めたい方のグループと、若い方、基礎的な信仰を学びたい方のグループがあります

2013年

11月16日 三位一体のエリザベツ

12月14日 十字架の聖ヨハネ

講話 伊従 信子  
午後2時～午後5時30分位まで、  
講話、祈り、分かち合い。  
参加費 200円

申し込み・お問い合わせ  
ノートルダム・ド・ヴィ  
〒177-0044  
練馬区上石神井4-3  
2-35

TEL(03)・3594・2247

FAX(03)・3594・2254

E-mail notredamedevic.japan@gmail.com

ホームページ

<http://www.ndv-jp.org/>



カルメル会の靈性を受け継ぐノートルダム・ド・ヴィ(いのちの聖母会)は、現代社会のあらゆる場で社会人として働きながら、神への全き奉獻を通して、祈りと活動の一致を生きることを、その精神・理想としています。

## ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

- ◎ 所在地：〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1  
Tel：077-579-7580 Fax：077-579-3804  
E-メール：karainorind92@mbe.nifty.com
- ◎ 交通：JR京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。琵琶湖の方へ徒歩 約13分
- ◎ 日程：
  - A. 8日間の個人指導による黙想  
初日は、17時のミサで始まり、最終日は昼食で終わります。
  - ④ 12月27日(金)～2014年1月4日(土)
  - B. 祈りの体験：週末3日間 (金曜日の夕食～日曜日の昼食)  
【神との親しさの中で日常を生きるために】
  - ⑥ 11月1日(金)～3日(日) ⑦ 11月29日(金)～12月1日(日)
- ◎ 対象：信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。
- ◎ 靈的同伴者： 司祭、ノートルダム教育修道女会会員、その他
- ◎ 申込み：1) 名前 2) 住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号) を書いて  
郵送、または、Faxで「黙想係」松本佳子 へ申し込んでください。  
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。  
いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。先着順11名です。
- ◎ その他：司祭同伴の黙想会やグループ研修会のために修道院をご利用なされたい方はご相談ください。(但し、上記の日程と8月1日～8月9日を除きます。)



**主に選ばれる恵み**  
ここを離れず  
私と共に目を覚ましていなさい

2013年第三回 召命黙想会

日時： **11月9日(土) 15:00～**  
**10日(日) 15:30まで**

場所： ノートルダム唐崎修道院  
(JR京都駅から30分)

指導： 山内 十束 神父 (御受難会)

対象： 独身女性信徒

費用： 2,000円

締切： 2013年 11月 3日 (日)

<申込み・問合せ>

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎 1-3-1

ノートルダム教育修道女会

Sr. 桂川

Tel 077-579-2884 Fax 077-579-3804

Email karainorind92@mbe.nifty.com

## サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

★申込み受付・開始日の8日前で締切ります

詳細、補充情報はホームページをご覧ください。 URL : <http://sadhana.jesuits.or.jp/>

コース	日時<指導者>	指導者	開催場所	申込み
入門B	11/10(日) 9:30-17:00	Fr植栗	上石神井黙想の家	若山美知子※ Tel/fax 03-5802-3844
日帰り	11/17(日) 9:30-17:00	Fr植栗	援助修道会リヒト宣教室 (市ヶ谷)	若山美知子※
自己を知る *1泊2日 ×2= 合計4泊	2014年 1/11(土)9:30- 1/12(日)17:00 1/18(土)9:30- 1/19(日)17:00	Fr植栗	小金井聖霊修道院	若山美知子※
入門C	2/2(日) 9:30-17:00	Fr植栗	援助修道会リヒト宣教室 (市ヶ谷)	若山美知子※
サダナI	2/8(金)17:30- 2/11(火)16:00	Fr植栗	三位一体聖体宣教女会 東京修道院(東村山市)	若山美知子※
入門A	2/8(金)17:30- 2/11(火)16:00	Fr ラフオント	広島市・西日本霊性センター(長束黙想の家) 申込み:西日本霊性センター「こもれび」 Sr 田中 Tel 082-239-0034/Fax239-0036	
日帰り	3/2(日) 9:30-17:00	Fr植栗	上石神井黙想の家	若山美知子※
サダナII	3/19(水)17:30- 3/23(月)16:00	Fr植栗	三位一体聖体宣教女会 東京修道院(東村山市)	若山美知子※

※不在の場合は、渡辺由子

Tel & Fax : 042-325-7554

(注) 日帰り=サダナIを終えた方

\*サダナI=体の営みと想像とを生かして祈りを深め、「神との出会い」と「心の解放」をめざす。

\*サダナII= Iをいっそう深める。身体・感情・想像・自分史が、神との交わりのもと統合される。



## カルメルの霊性に学ぶ

### 『完徳の道』

場所：真生会館 10:30～12:00

11月12日（火）『完徳の道』第38～第39章

12月12日（木）『完徳の道』第40～第41章



東京都新宿区信濃町33番地4 真生会館ビル

TEL：03-3351-7121（受付代表）

<http://www.catholic-shinseikaikan.or.jp/>

九里彰神父（カルメル会日本管区長）

慈しみ深き会

## 祈り：講話と実践

沈黙の内に神を求めて

—観想の祈りへの道—

場所：イグナチオ教会岐部ホール 14:00～16:00

12月のみマリア聖堂（ミサ有り）

11月13日（水）『靈魂の城』第5の住居の第4章

12月11日（水）『靈魂の城』第6の住居の第1章

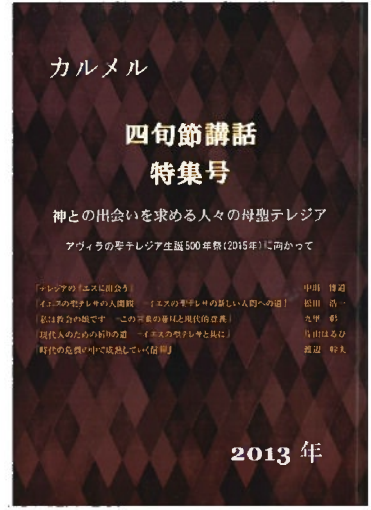
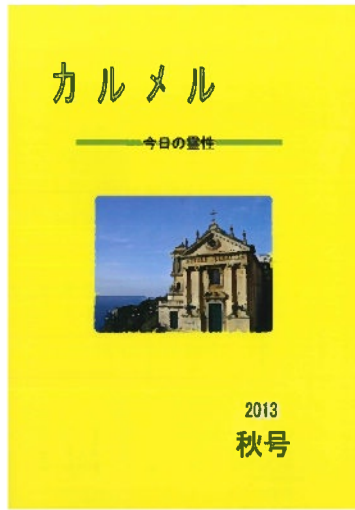
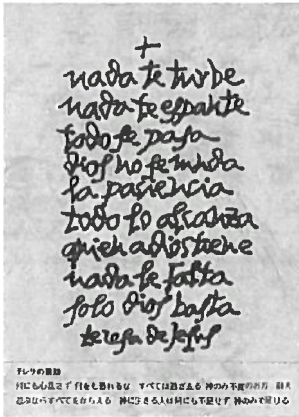
アピラの聖テレジアの「靈魂の城」を読んだ後、一緒に沈黙で祈ります

\*参加費無料（献金歓迎）

\*問い合わせ先：042-473-6287 篠原

※各黙想会内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

「カルメル」  
今日の霊性・秋号  
四旬節講話特集号



カルメル 2013 特集号

2013 秋 No.350

「神との出会いを求める人々の母  
聖テレジア」

砂漠の修道院に入る (6)	私は生まれなかったかもしれない	西行と芭蕉の霊性 (1) ——奥を尋ねる	修道院生活 春夏秋冬 (9)	人を育む霊性 ——エディット・シュタインの教育論 (2)	「お鍋の中にも主はおられます」 ——日常を生きる	生活のなかのカルメル	修道院の窓から ——一期一会	● 目次 ●	● (今年の特集 イエスの聖テレジアと信仰) ●	● 信仰を生きる (3)	● 信仰年 聖テレサに導かれて (3)	● 現代人のための祈りの道 ——イエスの聖テレサと共に	● 「私は教会の娘です」 ——この言葉の意味と現代的意義	● イエスの聖テレサの人間観 ——イエスの聖テレサの新しい人間への道	● テレジアのイエスに出会う
奥村 一郎 52	森 みさ 46	山畑 邦治 38	高橋 重幸 32	須沢 かおり 26	中山 真理 20	原 造 17	伊 從 信子 9	九 里 彰 3	渡 辺 幹 夫 51	片 山 は る ひ 37	九 里 彰 24	松 田 浩 一 12	中 川 博 道 2		

購読のご案内

雑誌「カルメル」はどなたでもご購入できます。(カトリック書店：サンパウロ、ドンボスコ書店等) 定価は、一冊460円です。

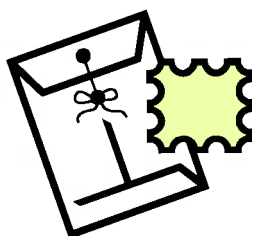
- 送付ご希望の方は、600円【内訳 460円 (+送料140円)】を下記へお振込み下さい。
- まとめてご購入希望の方は、年会費 (年5冊：春夏秋冬号・特集号【460円×5=2,300円】+ 送料【700円】計 3,000円) を下記へお振込み下さい。

郵便振替：00190-4-195457 跣足カルメル修道会  
お問い合わせは、事務担当竹田まで。

TEL (03) 5706-8356

# 霊性センターニュース

## \* 年間購読(郵送)のご案内 \*



来年(2014年)1月から12月までの『霊性センターニュース』  
年間購読(郵送)のお申し込みを受け付けいたします。

年間購読の場合の献金は、2500円程度をお願い致します。  
これには11回分の送料(8月休刊)が含まれます。

ご郵送は、基本的に申し込み翌月から12月までとなります。  
例：6月申込の場合は、7月号～12月号(但し8月号休刊を除きます)  
この場合の献金については、ご希望の月数×250円程度となります。

申込先：下記の霊性センターニュース事務局へ、  
氏名、郵便番号・住所、電話、Fax等をご記入の上、  
郵送か下記のe-mailでお申し込みください。

《郵送でのお申し込み》

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25  
カルメル会上野毛修道院 「霊性センター事務局」

《e-mailでのお申し込み》

[tokyo@carmel-monastery.jp](mailto:tokyo@carmel-monastery.jp)

献金振込先：霊性センターニュースの最終ページをご参照下さい

\* 何かご質問等があれば、下記にご連絡ください。

Tel: 03-3704-2171

Fax: 03-3704-1789



## 『霊性センターニュース』お持ち帰りの方へ

一冊 100 円程度の献金をお願い致します！

### 「霊性センターへの献金」のお願い

「霊性センターニュース」は、現在、上野毛霊性センターで編集、印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担しております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座： 00110-4-297250

加入者名： カルメル霊性センターニュース

なお通信欄へは「献金」とご記入ください。

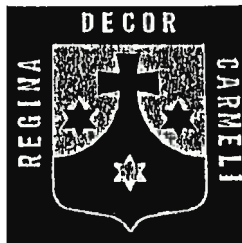


### 編集後記

先日、天竜峡にある長野の女子カルメルに、しばらく滞在した。いつも自動車で行くのだが、車を降りると、時間がゆったりと流れているのを感じる。ゆっくり呼吸ができると言ってもいい。都会のビルの中に住んでいると、雑音のせいか、あるいは仕事に追われ、せかせかと歩いているせいか、息していることも忘れてしまっているように思える。

翌朝、窓のカーテンを開けると、目の前はまさに水墨画の世界であった。山々の間に、白い雲というか霧が漂い、それが、生き物のように刻々と変化していく。大地が吐き出す息のようでもあり、自然が生きていることを実感する。ある朝、不思議な光景を見る。小さな峰の頂から、烽火（のろし）のように、霧が立ち上っているのである。雲の柱のようでもあり、それがあちこち、ぽこぽこある小さな峰の頂から、立ち上っているのである。

このような自然の中に生きていれば、私たちはおのずと霊的に変えられていくのではないだろうか。人工物に囲まれ、自然に接する機会が極端に少なくなった現代人は、神秘に対するセンスを失ってしまったかのようである。 (P.九里)



.....製本／発送のご協力お願い.....

「霊性センターニュース」の製本／発送は、基本的に[毎月最終週の火曜日](#)に行われます。作業はホッチキス綴じと購入者様への発送のみです。皆様のご協力をお待ちしております。初めての方、不定期参加の方も、大歓迎です。お茶とお菓子の時間もありますよ♪

「12月号」製本日

[11月26日\(火\)](#) 上野毛教会信徒会館ホール 1階

午後1時半頃から～

※参加ご希望の方は、念のため、製本日をご確認下さい。霊性センター係

TEL 03・3704・2171